

書籍紹介

吉元昭治 著

『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 中国篇』

『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 日本篇』

『老荘とその周辺 古代中国医学の源流および道家・道教との関わり』

『不老長寿への旅 ニッポン神仙伝』

著者吉元昭治氏は日本医史学会総会の第81回(1980年)より第119回(2018年)まで38回にわたり、中国伝統医学と道教に関する演題を発表してこられた。東洋医学、中国医学、そして日本漢方に加えて、日本の民俗的なものにおいても、その底流に流れる道教的な哲学と思想の存在を否定するものはいないと考えるが、日本における道教研究は必ずしも多くない。氏によれば日本道教学会における道教医学の研究者は吉元氏一人であったとのことである。氏は産婦人科臨床医としてカンジダの研究から始め、鍼、ダイオード療法、中国古代医学を学ぶ中で40歳以降に独学で道教を学んで発表してきたとのことである。『漢方の臨床』に多数の掲載があり、また生涯にわたる出版書も多数ある。市井の独立した研究者としての研究の進歩と発展を残す意味で上記四書を出版されたと聴く。

日本医史学会の学術大会では、毎回2日目日曜日朝の第1席で発表されていたが、口演内容に対する質問をできる会員は少なかったように記憶している。多忙な臨床医として学会発表後には総会開催地近郊の史跡をめぐり、足で現地や古記録を検証して成した研究も多いと思われる。四書とも

に図・写真に富み後学のものにとり大きな援けとなるものと考えられる。なお『養生外史』は1994年医道の日本社出版本の復刻版、『不老長寿への旅』は1998年集英社出版本の復刻版である。『老荘とその周辺』の「おわりに」として著者は魯迅の言葉「人はしばしば坊主を憎み、尼を憎み、回教徒を憎み、キリスト教徒を憎むが、道士は憎まない。この理屈がわかれば、中国のことは大半わかる」で閉じている。

大変残念であるが吉元昭治氏は2020年9月92歳にて逝去された。謹んでご冥福を祈ります。

(渡部 幹夫)

[たにぐち書店、〒171-0014 東京都豊島区池袋2-68-10, TEL. 03 (3980) 5536,
『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 中国篇』, 2019年10月, A5判, 356頁, 5,000円+税
『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 日本篇』, 2019年10月, A5判, 308頁, 4,000円+税
『老荘とその周辺 古代中国医学の源流および道家・道教との関わり』, 2019年12月, A5判, 296頁, 4,000円+税
『不老長寿への旅 ニッポン神仙伝』, 2020年2月, 四六版, 272頁, 3,000円+税]

小石家文書研究会 編

『究理堂所蔵 京都小石家来簡集』

本書は、初代元俊・二代元瑞以来、九代にわたって京都で医業に従事してきた究理堂小石家に

所蔵される来簡のうち、精選した医者・蘭学者の書簡88通を、影印(カラー78頁)と先行研究・